

時事新報

夜又カ苦難カ

佛清ノ戰爭ハ東洋ノ大事ニシテ亦世界ノ大事ナリ佛國人ニ  
テ支那ノ對シテ其志ヲ得ルハザラシメシカ佛清  
兩國ノ兵禍永ク結スリテ解ル時ナク支那ト貿易ノ關係ヲ  
有スルノ諸國ハ悉皆非常ノ損害ヲ被ルナルベシ英國ハ東洋  
ニ對シテ第一ノ貿易國ナリ支那ノ外國貿易一箇年ノ輸出  
入一億餘圓此内過半ハ英吉利本國及ヒ其屬邦印度國トノ貿  
易ヨリ成立スナリ故ニ佛清戰爭ノタメニ支那ノ貿易ヲ中止  
セバ大ニ商利ヲ奪ハル、者ハ世界中英國ヲ以テ第一トスベシ  
今此英國ニシテ悠悠佛清ノ戰爭ヲ傍觀スルノ理ナキナリ又  
佛國人ニシテ大ニ其力ヲ今回ノ戰ニ盡シ海陸ノ軍略ヲ巧ニ  
シテ十分ノ勝利ヲ博スルコトアラバ佛國ハ必ズ戰勝ノ威力  
ヲ以テ飽クマテ強ク支那政府ニ要求シ償金ノ外ニ新ニ土地  
ヲ割カシムルノ工風ヲ爲スベキヤ疑フ容レズ佛國ハ去年以  
來ノ遠征ニ既ニ費南東京ヲ略取シテ東洋ニ第二ノ印度ヲ作  
ル其基礎正ニ成ルノ趣ノルニ今又支那ノ或ル要地ヲ占領ス  
ルニ於テハ其威權日ニ益重キテ加ヘ異日亞細亞ノ極東ニ最  
第一ノ權勢ヲ有スル者ハ必ズ三色旗ヲナラシムルコトヨリ期シテ  
待ツテ得ベシ然レモ目下印度洋洲ヲ始メ東洋各要衝ノ地方  
ニ領地ヲ有シ貿易上ノ利益ハ勿論政治上ニ強大無比ノ權力  
ヲ掌握スル者ハ佛國ニアラズテ英國ナリ今此英國ニシテ  
悠悠佛清ノ戰爭ヲ傍觀シ自家權力ノ失墜ヲ憂ヘザルノ理ナ  
キナリ然レモ其實際ニ於テハ大ニ然ラズ郎松事件ノ發出以  
來米國政府ノ如キ佛清兩國ニ對シテ左マデ近密ノ關係ヲ有  
セザル者マデ頻リニ仲裁調和ニ奔走スル其傍ニ貿易上ニモ  
政治上ニモ自家ノ頭上ニ直接ノ大關係ヲ有スル英國ニシテ  
悠々閑坐坐視スル様子サヘナク最初ヨリテ世界ニ佛清事  
件ナルモノアルヲ知ラザルガ如ク或ハコレヲ知ルモ佛清清  
トノ戰爭ハ佛清清トノ事ニ關スル事ニテ英國ノ利害ニハ關  
係スルコトナシト深信シテ疑ハザルモノ、如キ外貌ヲ狀ヒ  
在リテハ實ニ解スベカラザル舉動ニシテ其原由ハ如何其眞  
意ハ如何ト我輩ガ度々論陳シテ大ニ疑ヲ存セザル所ナリ  
然レモ今回彌爾此疑問ヲ解シベキノ時節到來シタリト云フ  
ハ去ル七日福州ノ閩江ニ於テ英國軍艦「セフピア」號ガ突然  
支那砲臺ヨリノ砲撃ニ遇ヒ士官兵士ノ重傷ヲ負フ者數名ア  
リタル事ニナリ砲撃ノ原因ハ目下尙ホ未ダ詳カナラズ或ハ  
曰ク佛國軍艦ガ閩江ノ砲臺ヲ砲撃シテ立去ルト聞モノナク引  
進ヘテ英國軍艦ガ入來リタルニ付砲臺ニテハ前ノ佛艦ナリ  
ト心得直ニ英國艦ニ向テ砲火ヲ開キタルナリト或ハ曰ク支  
那兵士ハ福州羅星塔砲所ノ外國人ノ居館ヲ誰レ彼レノ區  
別ナク劫掠シ眼中英佛各國ノ區別ナキ折柄入港ノ軍艦ハ仮  
令其權限ニ英艦ヲ關ヘスモモセロ一個ノ外國艦ハ相違ナ  
キニ直ニ打掃ヒタルマデノコト固ヨリ英佛ノ區別ヲ  
爲サザルノ理ナリト此說執レカ是ナルヲ知ラズト雖モ  
東洋ノ各國ノ軍艦ガ支那ノ兵士ヲ砲撃セザレト士官兵士ニ

眞實アリタルハ事實ナリ情斯ク英國軍艦ニシテ無法ノ砲撃  
ヲ受ケタル以上ハ大不列顛女皇陛下ノ政府ハ支那政府ニ向  
テ何様ノ掛合ヲ始メキヤ奇貨居クベシト云テ直ニ巨額  
ノ要求ヲ呈出シコレヲ承諾セザルニ於テハ威嚇ノ音ノ如ク  
英佛兩國力ヲ協シテ再ビ北京ニ攻入ルノ勢ヲ示スカ、又ハ  
過激ハ人間ノ兇カレカカラザル事ナリ佛艦ト見誤マラレテ  
砲撃ニ遇ヒタルハ我軍艦ノ不幸ナリ必ズモ人ヲ咎ムベキ  
コトアラズト云テ數萬圓ノ療治代位ヲ請ヒ受ケタルマデニテ  
別ニ恨ヲ遺サザルベキカ、以テ夜又カ苦難カト以テ菩薩タル  
ベシ、此處實ニ肝心肝要ナル分ケ目ノ場所ナリ、英國政府ハ  
寬嚴果シテ執レノ方向ニ其政策ヲ定ムベキ英國ニシテ或  
ハ既ニ佛國內約スル所アリテ利益ヲ分ツノ密謀アラシム  
ルカ又ハ内約密謀ノ未ダ定マルモノナシト雖モ天ノ與フル  
ヲ取ラザレバ却テ其禍ヲ受ク我レ今此好機會ニ際シテ自カ  
ラ我利益ヲ謀ラザレバ悔フトモ及ブベカラザルノ時來ラン  
トテ先ツ其欲ヲ濟スノ道ヲ求メントスルカ其方法甚ダ容易  
ナリ假令支那政府ニテ何様ノ辨疏ヲ過談ナリ問違ナリト云  
ヒ來ルトモ支那ノ兵士ガ英國軍艦ニ向テ發砲シ國旗ヲ辱カ  
シメ艦士ヲ傷ケタルノ一事ハ明白ナル事實ニシテ致害  
者タル支那政府ハ兎ニ角ニ其實ヲ免カレ、ト能ハズ既ニ其  
責ノ在ル所明白ナル以上ハ北京ノ英國公使「パークス」氏ニ  
調令ヲ傳ヘ整々堂々嚴重至極ノ掛合ヲ爲サシムルモ誰カ英  
國ヲ評シテ無理無法ナリト云フ者アランヤ去ル六月郎松ノ  
一戰ハ其曲直佛清孰レニ在ルヤ未ダ分明ナラズ世界ノ衆論  
ハ佛軍ヨリ事ヲ求メテ佛軍自カラ敗走ノ恥辱ヲ取リタルモ  
ノナリト評シ合ヘル此一事變スラ尙ホ且ニ二億五千萬「フ  
ランク」ノ償金ヲ要求スルノ人アリ閩江砲撃ノ如キハ其非  
明カニ清國ニ在ルコト清國政府ノ自認スル所ニシテ既ニ曲直  
ノ爭ヲ要セズ斯ル公正ノ問題ヲ提クテ來リテ數千萬ノ償金ヲ  
要求スルハ實ニ當然ノ處置ナレバト軍艦兵士以テ恐嚇ヲ  
逞クシ大ニ今ノ北京政府ニ要スルコトアラズハ江蘇省地方  
ニ於テ第二ノ香港ヲ作ル位ノ事ハ手ヲ覆スヨリモ容易ナル  
ベシ然レハ英國政府ニシテ小欲ノ爲メニ大利ヲ損セズ其志  
尙ホ甚ダ遠大ナランコト今回ノ談判ニ當リテ特ニ佛面温顔  
ヲ狀ヒ英國佛國均シク西洋ニ國スルモノナリト雖モ西洋人  
必ズモ皆貪婪無法ナラズ今回ノ事件即チ其適證ナリ我英  
國人ヲ取テ彼ノ佛國人ニ對比スベシ雙方ノ間ニ氷炭モ音ナ  
ラザル相違アルヲ認メ得ベシ自今永ク支那人ノ信用ヲ措ク  
ベキモノハ西洋唯一ツノ英國アルノモノナリト事ヲ說得ス  
ルノ政策ニ出ルコトナラン兎ニ角ニ閩江ノ砲撃ハ英清兩國間  
ノ一大事件ナレハ英國政府ハ何レノ方向ニカコレヲ利用ス  
ルノ策ヲ運ラスコトナラン我輩ハ其方向ヲ見テ或ハ今ノ英國  
政府ノ意中ヲ察知スルヲ得ベキカ

佛清事件

○清國吳淞口を塞かんとす 本月十二日上海報にて左の電  
報あり

清國ハ官軍ハ吳淞州ノ通過ヲ封鎖せんことを主張せり  
此電報を解譯すれば清國の防務官が佛艦の上海に侵入せん  
事を感じて吳淞口に通過を許し難し其難に備へんと欲すれ  
共中立諸國之吳淞口の通過を認める、時以上海海軍の貿易は  
全く絶止するのみならず吳淞口内亦停泊して居留地を保護  
する軍艦も事變に際して口外に擧出すると認はずかた／＼  
其不便一方ならざるを以て清官等に其旨を掛合ひたるも清  
官等の備封港を主張して已まざるとは意味なるべし先に我紙  
上にも記せし如く上海吳淞の二地は佛國が於ても認めて中  
立同様地とみし後決して此等の地に於て開戦せざるべ  
しと約し上海の道台も其旨を告示したるにも拘りらず過日  
も兩江總督曾國荃より砂石を以て吳淞河口を塞ぎし唯中立  
國船の航路のみを礙さしめんとを道台も命じしる由あり  
しが今又此電報あるを見れば清國の防務官は何佛國が前言  
を踐まざして上海を侵襲するに備へたるを疑ふに依るもの  
なるべし但し清官は其後中立國の旨を納れ滬河の企を止め  
たるが如きは尙其説を主張して已まざるか後報を待て之  
を知るべし

○佛艦カリフォルニア號 同號が福州駐在の佛國領事を載せ  
九月三日香港に着したる由の前號の紙上に記載ししるが同  
号は霧に籠れ砲撃したる際に支那人の爲めに射撃され  
て少しく損害を蒙りたる上、今度福州長門砲擊に於ても  
清兵の爲めに退ひ退り且つ其艦體を傷けたりとの取沙  
汰なれば香港の人民はカリフォルニア號の來若し開き小船に  
乗して同号の周圍に集り其損所を賞賚せしに支那兵の彈丸  
に撃ち貫かれたるものと見え望塔下に一穴あり又他の一  
穴は吃水線上殆んど四英尺の處に在り因て其穴を槍するに  
水上相對する清艦より放たれたる砲丸は非走して恰かも水  
中より撃ち出したる彈丸に如く又其穴の大きより推し測る  
に凡ソ十五センチメートルのクルツパ砲より發射したる彈丸  
に穿たれたる者の如くに思はれたり又同時に入港したる佛  
艦サオン号も同じく鉄砲を受け居れ右二艦は香港に着  
したる、同所の船渠にて其損所を修繕する爲めならん大  
に就き香港の支那人は英國の香港太守「ホー」氏に其修繕  
を許可す可らざる旨を訴へたりと云

○外國就役條例 英國の香港太守「ホー」氏が本國外  
務卿「ラン」氏の命を受け英國女皇陛下即位の三十三  
年同四年に議定したる外國就役を關する制規は其儘香港に  
嚴行する可き旨を以て其條例を本港に布達ししる由は前號  
紙上に掲げししが其原本は左の如し

凡ソ英國人ハ其版圖ノ内外ヲ論セズ女皇陛下下ノ和親交通  
スル甲外國ト交戦中ノ乙外國ノ海陸軍役ニ就キ或ハ其委  
任ヲ受ケ或ハ之レト契約セテ其補助ヲ與フルコトヲ許サズ  
又英國人ト他國人ト同ハズ凡ソ交戦國ノ一方ヲ補助ス  
ル爲メ英國女皇陛下ノ版圖内ニ於テ兵卒ヲ招募スルコト  
許サズ又船隻及船主ハ前號ニ掲ケタルガ如ク新舊アル者  
搭乗スルコトヲ許サズ交戦國ノ海陸軍役ニ供フ可キ船隻  
ヲ建造シ或ハ之ヲ修繕スルコトヲ許サズ又交戦國ノ海陸軍

用ニ供ス可キ者  
右に就き香港太守は此電報に香港太守は此電報に英國女皇陛下の  
最下を明かに  
規するものな  
布を發せざる  
清國と交戦し  
望するが故に  
し、又、清國の  
に非ざる、否  
公布を發表す  
するを價例と  
交戦國を指示  
○佛清軍艦の  
軍艦は何れも  
新造に係る二  
大砲を備付け  
めなれば佛艦  
西字新聞に見  
○沈没の軍艦  
ての上海海に  
製造したる數  
ロング氏の製  
したれ共無難  
は一艘も未だ  
當日沈没した  
るが其中揚武  
にて同局の製  
之同地には居  
○馬尾船政局  
以來艦を續せ  
去月二十四日  
尾船政局の來  
六十八年(清國  
四年に功を竣  
ハ全く佛國人  
此回佛國が大  
年佛國人の頭  
云へる人元元  
比税關の事と  
此即ち海軍  
と稱され其實  
するとは實

佛清事件  
○清國吳淞口を塞かんとす 本月十二日上海報にて左の電  
報あり